

就職に伴う若者の地域間移動の選択過程(2)

— 地方圏から地方圏へ移動するケース —

○松浦美晴¹⁾・上地玲子²⁾・岡本響子³⁾・岩永 誠⁴⁾

(¹⁾²⁾山陽学園大学総合人間学部・³⁾奈良学園大学・⁴⁾広島大学大学院人間社会科学研究所)

背景と目的

地方における、若者の転出問題を考える視点の1つとして、「意志決定の際の判断規範となる最たるものである効用がどのようなものからもたらされると移動者が考えるか」(堤, 1989)がある。本稿では、大学卒業・就職時に地元である地方圏の岡山県から地方圏である沖縄県へ移動した女性1名のインタビュー事例を取り上げる。移動者が求める効用と、それがもたらされる可能性の高い環境についての移動者の判断、さらに、移動の意思決定に至る過程を検討する。

方法

就職のため岡山県から沖縄県へ転居済みで4月からの就業を控える女性大学卒業者 B さんをイ対象とし、3月にオンライン会議ツール Zoom によるインタビューを実施した。B さんの許可を得て音声録音した。所要時間は約1時間であった。音声を逐語化し SCAT (Steps for Coding and Theorization) (大谷, 2008) 分析を行った。なお、別ケースの対象者を「A さん」としたため、本報告の調査対象者を「B さん」とした。

結果と考察

SCAT では、4 ステップのコーディングを通して抽象度を上げ、「テーマ・構成概念」を抽出する。テーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する。本調査のケースの要点となるストーリーラインを抜粋する。文中、「[]」は、「テーマ・構成概念」である。

B さんにとっての地域間移動の効用は、自分が求める自然の中でのゆったりした生活、すなわちスローライフを可能にすることであった。

B さんは、[就職したら避けられないストレス]を覚悟し、[働くなら自分の好きな環境]で、と考えた。[自分の好きな職種と自分の求める環境]という [条件で絞って決めた移動先]が沖縄であった。(中略) それだけでなく、[他にある移動先選択の理由][移動先選択の詳しい理由]として[スローライフへの憧れ]と、[せわしない生活への忌避]があり、[理想のライフスタイルの実現]のための[自分の性格に合った場所の選択]として、移動先を選んだ。(中略) [移動先のメリット]は[海辺の絶景]であり[手軽に楽しめる絶景]で[ストレス発散]できること、[移動先のデメリット]は[移動の不便]

[さ]であった。B さんにとっては、[利便性より優先される自然の景色]が大切であった。

スローライフを求めるきっかけの1つに大学時代の遊びがあった。

[自然を求めるようになった時期の回想]をすると、[子どもころからの志向性]であり、[中学高校時代に減って大学時代に増えた海での遊び]で、[自然の中で遊ぶ良さへの気づき]があったという。[就職活動前に決まっていたスローライフ志向]であった。

地元に残らなかった理由は、同じ生活が続き刺激がないためであった。

地元での就職を希望しなかった理由として、[地元を出たい気持ち][自立したい気持ち]があった。(中略) [地元のメリット]は[生活利便性]、[地元のデメリット]は[生活の刺激のなさ]

若者が地元に残る誘因としての「社会関係資本」の存在が指摘されている(石黒, 2018)。B さんは、家族や地元の人間関係から離れた寂しさを感じるが、移動先での人間関係づくりに意欲的である。さらに、SNS により、移動後における地元の人間関係の維持も可能である。

移動直後の現在、[1人暮らしの寂しさ][家族と別れる寂しさ]を感じている。[仕事に慣れるまでの大変さ]も予想している。(中略) [地元の人間関係を離れた寂しさ]の一方、[移動先での人間関係づくりの意欲]がある。また、[地元のソーシャルキャピタルの維持を可能にする SNS の存在]によって、[SNS を用いての地元の人間関係の維持]もできている。

文献

- 石黒 格 (2018). 青森県出身者の社会関係資本と地域間移動の関係 教育社会学研究 102, 33-55.
- 大谷 尚 (2008). 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案 — 着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き —, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 教育科学 54(2), 27-44.
- 堤 研二 (1989). 人口移動研究の課題と視点, 人文地理 41(6), 529-550.

本研究は、JSPS 科研費 24K05781, ウェスコ学術振興財団研究資金助成事業の助成を受けた。実施に当たり、責任発表者の所属機関で研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号: A2023U014)。ご協力いただいた B さんに感謝申し上げます。